

ならやまトーク・投句(3月編)

〈寒中吟〉

晨星の生駒の嶺や初菫

中井 弘

(星の残る暁の空、生駒の嶺はもう仄かな菫色に 新春山男の句)

参道に笠の音届く初詣

藤原 勲

(初詣の参道に響く笠の音に、心までも洗われ思わず襟を正す)

天晴れや黒いジャージのラガー達

同

(新型コロナの試練に耐えて全国大学ラグビー天理大初栄冠！  
よかった、よくやった。當てのラガー、老いの血が燃える)

巢籠りや家事降りしきる冬の朝

岡田安弘

(ゆっくり朝刊を読む間もなく米洗い、風呂掃除が待っている)。

ナラ枯れも薪でひと役七日粥

中井 弘

(初出は七日、七草粥を炊く。なら枯れの薪も立派に役立った)

柿植えて米寿までにと初笑い

古川祐司

(十年会員記念の植樹。カキの実が傘寿の祝いになる方も)

雲流る寒風の中バスを待つ

笠井文夫

(新型コロナの中、やむを得ない外出も。バス待つ身に寒さが  
こたえる。この雲行きでは雪になるかも)

〈春近し〉

田起しの跡追いかけて鳧の群

坂東久平

(春耕と餌をあさる鳧(けり)の群れ。毎日の万歩の嬉しい発見)

病む友をスマホで見舞う春隣

阿部和生

(コロナ禍に面会もスマホで、元気そうな映像に安心)

佐保姫の平城山の裾彩りて

小山喜与男

(佐保姫は春の季語。野山を涉って春の花々を咲かせるとか)

水溜りピョンピョン跳ぶ子春の雨

藤原 勲

(生憎の雨模様。春と待ちかねた子供の弾む心が微笑ましい)

春光やうつらうつらにバツハ聴く

ハ木 順一

(春日の午後、好きなバツハの曲に浸る、究極の癒しですか)

春眠を蹴散らし猫のセレナーデ

ハ木 順一

(ネコの恋は季語。あの鳴き声だけは何ともいただけませんね)

古物置組む傘寿らの冬日和

古川祐司

(実りの森に、古い物置を再利用すると頑張る傘寿たち)

投句歓迎 (古川まで)

CY003421@nifty.com